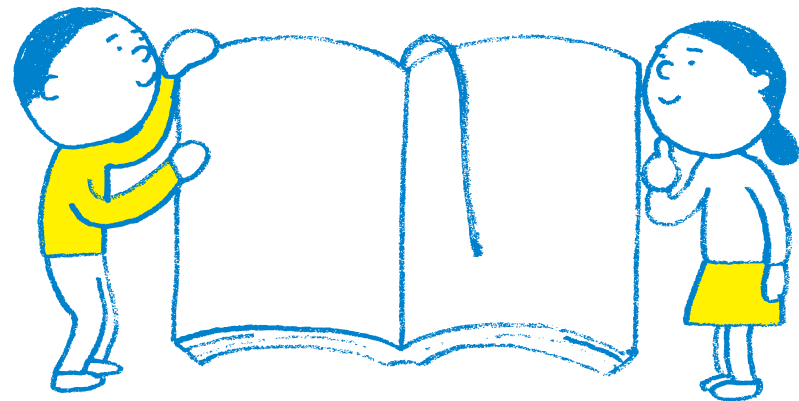


# 私のおすすめブックコンテスト

～感動を友だちに伝えよう～



明光義塾 推薦図書一覧

この夏、明光義塾と各出版社が協力して、みんなに推薦する本を選びました。

小学校低学年



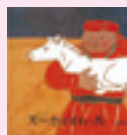
『エルマーのぼうけん』  
どうぶつ島に捕えられているりゅうの子を助けるため、冒険の旅に出た少年エルマー。そこで起こる様々な事件を、知恵と勇気とユーモアで乗り越えていく。空想の力にあふれた、長く読みつかれている童話の傑作。  
ルース・スタイルス・ガネット 作／ルース・クリスマン・ガネット 絵／渡辺 茂男 訳 福音館書店



『サンタのおばさん』  
世界各地からサンタクロースの代表が集まる国際会議で、アメリカのサンタの後任候補として紹介されたのは、シングルマザーのジュシカだった。「女性サンタ」を認めるか、認めないか。会議は大もめにもめる。  
東野 圭吾 作／杉田 比呂美 画 文藝春秋



『鹿よ おれの兄弟よ』  
「おれは鹿の肉を食う。それはおれの血、おれの肉となる」。シベリアの神秘的な森を舞台に、鹿をとる猟師の自然への敬いと鹿への思いを、力強い詩でつづる。生命のつながりについて深く考えさせられる美しい絵本。  
神沢 利子 作／G・D・バヴリーシン 絵 福音館書店



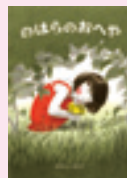
『スーホの白い馬』  
モンゴルに伝わる楽器、「馬頭琴」の由来にまつわる物語。白い馬と少年の心の交流と別れを、悲しくもみずみずしく描く。横長の画面を生かして雄大な平原を表現し、世界的な評価を受けた名作。  
大塚 勇三 再話／赤羽 吉画 福音館書店



『つむぎがかぞくになった日』  
隣のじいちゃんに迷いこんだこねこは、「つむぎ」となづけられた。ほくは大好きなじいちゃんをとられたようで、やきもちをやいて意地悪をした。台風の日、ほくのせいで、つむぎがいなくなりました……。  
なりゆき わかこ 作／小松 良佳 絵 ポプラ社



『ねえ、おはなし きかせて』  
ゆかが森で一人本を読んでいると、動物が集まってきて言いました。「ねえ、おはなしきかせて」ゆかが本を読んでもあげると、みんな大喜び。ゆかもうれしくなって……。いっしょにお話を楽しもうれしきさが広がる物語です。  
原 京子 作／高橋 和枝 絵 ポプラ社



『のはらのおへや』  
ひっこしたばかりのさっこちゃんは、はやくおとなりの女の子に会いたくてたまりません。でも、おとなりはおるです。ひとりで野原をたんけんしていたら、すてきな場所を見つけました！  
みやこし あき 作 ポプラ社



『はじめてのキャンプ』  
大きな子どもたちにまじって、はじめてキャンプの一晚をすごすことになった小さな女の子。その気持ちの高まりや不安、そして勇気などが、ユーモラスに、表情ゆたかに描かれた童話。  
林 明子 作・絵 福音館書店



『またあえたね』  
「きみ、だいじょうぶ？」心配するこぐまをよそに、落ち葉は次々とあたり一面に降りつもる。すると、こぐまもいつしか深い眠りについて……。やがて、季節がめぐり、長い眠りから目を覚ましたこぐまを待っていたのは……。  
デヴィッド・エズラ・シュタイン 作／さかい くにゆき 訳 ポプラ社



『レンタルロボット』  
「ロボットかします」という店を見つけた健太は、弟ロボットを手に入れた。願いがかなって楽しい毎日だったけれど、おにいちゃんとしてがまんしなければならないことも出てきて、けんかになることも……。第19回小川未明文学賞大賞受賞作品。  
滝井 幸代 作 学研教育出版

小学校高学年



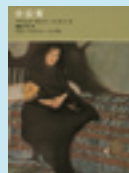
『あきらめないこと、それが冒険だ』  
1999年に世界七大陸最高峰の登頂という冒険に成功した野口健さん。その時、エベレストに大量のゴミが捨てられていることを知った。そしてその多くが、日本の登山隊のゴミだった。その経験から、「地球を守る」という野口さんの次の冒険が始まった。  
野口 健 作 学研教育出版



『A (アンペア)』  
親友が作ったメーターは「生きてる量をはかる箱」だった。見えないけど確かにあるモノ。僕の中にも「アンペア」はあるんだ。春休みの間の出会いと別れて、少しだけ成長していく少年の物語。著者はお父さんお母さんはきっと知っているゲージツ家。  
篠原 勝之 作 小学館



『風のダンテライオン 銀河のワールドカップガールズ』  
サッカー少女・高遠エリカは、口だけ達者でサッカーの下手な少年と8人チームを結成し、女子トップリークのチームと対戦することを目指す。NHKアニメ「銀河へキックオフ!!」原作。  
川端 裕人 作 集英社



『小公女』  
最愛の父の死によって恵まれた生活が一転、下働きとして屋根裏部屋に暮らすことになったセーラ。苦しい時も持ち前の想像力をいっぱいに働かせ、気高く果敢に生きる少女が呼びよせた奇跡とは？ 百年読みつかれた名作古典。  
フランシス・ホジソン・バーネット 作／高橋方子 訳／エセル・フランクリン・ペッツ 画 福音館書店



『すいかの匂い』  
あの夏の記憶だけ、いつまでもおなじあかるさでそこにある。つい今しがたのことみたいに――。困惑、痛み、邪気。それを知って、私はひとり、「これは秘密」と決めた。11人の少女の、かけがえのない夏の記憶の物語。  
江國 香織 作 新潮社



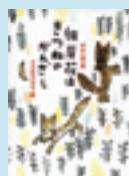
『素数ゼミの謎』  
17年あるいは13年おきに何億匹も現れる不思議なセミ。17・13という「素数」に隠された謎とは？ いったい「素数ゼミ」って何ものなの？ 子どもから大人まで楽しめる科学読み物。  
吉村 仁 作 文藝春秋



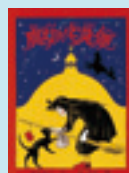
『チームふたり』  
東小卓球部のキャプテン大地は、小学校最後の試合で、5年生の純と組むことになり、がっかり。だが、それどころではない「事件」が家でも学校でも起きてしまい……。最後に大地が見つけた、「チームふたり」の形とは!?  
吉野 万理子 作 学研教育出版



『鉄は魔法つかい 命と地球をはぐくむ鉄物語』  
山に木を植えて海を豊かにするという「森は海の恋人」運動。そのしかけには「鉄」が大きな役割を果たしているらしい。(鉄)の不思議に迫り、楽しく自然の仕組みがわかる本。  
畠山 重篤 作 小学館



『彼岸花はきつねのかんざし』  
也子(かのこ)の前に現れた子ぎつね。「あたしに化かされたい？」ときかれた也子とはっさに、「ぜんぜん」と答えてしまう。段々とかけがえのない存在になっていく、也子と子ぎつね。だが、あの夏、あの爆弾が落とされて……。  
朽木 祥 作 学研教育出版



『魔女の宅急便』  
両親のもとをはなれ、ひとり立ちした魔女の子キキ。キキが新しい町ではじめての仕事とは？ 相棒の黒猫ジジと喜びや悲しみを共にしながら、町の人たちに受け入れられるようになるまでの一年をさわやかに描いた物語。  
角野 栄子 作／林 明子 画 福音館書店

中学生



『風をつかまえた少年 14歳だった ぼくはたったひとりで風力発電をつくった』  
廃品を利用し、独学で、風力発電をつくりあげたアフリカ・マラウイの14歳の少年。学ぶことの本当の意味を教える感動のノンフィクション！  
ウィリアム・カムクワンバ 作／ブライアン・ミラー 作／田口 俊樹 訳 文藝春秋



『神様のカルテ』  
信州にある「24時間365日対応」の病院で働く若き内科医・栗原一止(くりはら・いちと)。専門外の方の診療をするのも、3日眠れないことも日常茶飯事だ……。美しい自然に抱かれた病院で、個性豊かな登場人物が織りなす、いのちの物語。  
夏川 草介 作 小学館



『カラフル』  
大きな罪を犯して死んだ「ぼく」は、天使のはからいで、自殺した中学生の体へ乗り移って生き返る。他人の体を借りて生き直す「ぼく」の目には、最初は冷たく自分本位にうつつた周囲の人たちの本当の気持ちが見えてくる。  
森 絵都 作 文藝春秋



『願かけネコの日』  
3つをお願いを、神社で願かけたコースケ。気がつくと、三途の川にいた。へんなネコが現れて、「あんたはもう死んでいるのだよ」だって！ ええーっ、そんなあー。いろいろダメ男なコースケの、起死回生の物語。ぜったい元気が出ること間違いなし！  
那須田 淳 作／スカイエム 絵 学研教育出版



『きみの友だち』  
足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスの誰とも付き合わなくなった……。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。学校生活を送る、みんなにとっての「友だち」とは？  
重松 清 作 新潮社



『精霊の守り人』  
新ゴ皇国の二ノ妃から皇子チャグムを託された女用心棒バルサ。精霊の卵を宿した皇子を疎み刺客を差し向ける父帝や、異界から襲いかかる魔物を前に、バルサは身体を張って戦い続ける。幼いチャグムを守るために。  
上橋 菜穂子 作 新潮社



『セカンドウィンド 1』  
中3を前にした春休み、雲見峠で遭遇した疾走するロードバイクの集団。その日から溝口洋の世界はすべて変わった。自転車レースを軸に少年の成長を描く本格青春小説。その第1章、今スタート！  
川西 蘭 作 小学館



『西の魔女が死んだ』  
中学に進んでから学校に足が向かなくなった少女まいは、「西の魔女」のもとで魔女修行を始める。田舎の自然の中で暮らす彼女の心は次第に癒されていくが……。日々に悩み、魔女になりたいと願った少女の、ひと夏の物語。  
梨木 香歩 作 新潮社



『星の王子さま』  
砂漠に不時着した飛行士の前に、不思議な金髪の少年が現れた。次第に彼の事情も明らかになる。バラの花とのいさかいから住んでいた星を去った王子さまは、いくつもの星を巡った後、地球に降り立ったのだ。  
サンテグジュベリ 作／池澤 夏樹 訳 集英社



『真夜中のカカシデイズ』  
親友とも離れ離れになって関係がこわれ、周囲の子ともうまくいかず、引きこもりになってしまった中1の聡太。そんなある日、いつもの夜中のコンビニ帰りに田んぼのマネキンカカシから、突然声が聞こえてきた。それから毎日、カカシとのやりとりが始まって……。  
宮下 恵菜 作 学研教育出版

高校生



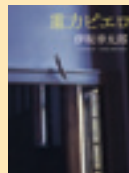
『偉大なる、しゅららぼん』  
琵琶湖畔の街・石走に住み続ける日出家と裏家には、代々受け継がれてきた「力」があった。高校に入学した日出涼介、日出淡十郎、裏広海が偶然同じクラスになったとき、力で力を洗う戦いの幕が切って落とされた。  
万城目 学 作 集英社



『ガールズ・ブルー』  
地方の落ちこぼれ高校に通う理穂、美咲、如月。平凡だけどお互いにとってお互いは特別な存在だ。同級生のスウとカレシ、理穂の弟、如月の兄ら高校生たちのひと夏の日常を繊細に描いた透明感あふれる青春群像小説。  
あさのあつこ 作 文藝春秋



『12の贈り物』  
すべての人が持っている12の贈り物(勇氣、希望、想像力、愛……)について、心にひびく言葉で語りかける美しい絵本。うれしい時も悲しい時も、いつもあなたを励まし見守ってくれる1冊です。  
シャーリーン・コスタanzo 作／黒井 健 訳・絵 ポプラ社



『重力ピエロ』  
連続放火事件の現場に残された謎のグラフィティアート。一見意味のない言葉の羅列は何を意味するのか？ 暗号解説に乗り出した兄弟は、やがて己の家族の真実に直面する。未踏にして未知のエンターテインメント、これぞ小説の奇跡！  
伊坂 幸太郎 作 新潮社



『ディア・カズ 僕を育てた55通の手紙』  
ベレ、バジジョ、パレージ、ストイコビッチ、ジーコ、トルシエ、中村俊輔、松井大輔、香川真司……。カズと関わってきた人たちが書いた、心こもる手紙。KAZUはいかにして出来上がったか？ その「KING」たるゆえんが明らかになる。  
三浦 知良 作 文藝春秋



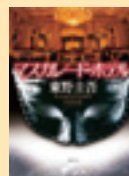
『人間失格』  
自殺未遂、薬品中毒……。3枚の奇怪な写真とともに渡された睡眠薬中毒者の手記に、克明に描かれた陰惨な半生……。太宰治の自伝であり、遺書でもある作品。  
太宰 治 作 集英社



『ピエタ』  
18世紀ヴェネツィア。「四季」の作曲家ヴィヴァルディは、孤児を養育するピエタ慈善院で〈合奏・合唱の娘たち〉を指導していた。そんなある日、教え子のエミーリアの元に、恩師の計報が届く。生きることの喜びを謳いあげる傑作長編。  
大島 真寿美 作 ポプラ社



『左手一本のシュート 夢あればこそ！ 脳出血、右半身麻痺からの復活』  
15歳の山梨県No.1バスケット選手・田中正幸君を襲った脳出血、そして右半身麻痺。もうバスケットは無理……。その宣告を覆し、「再び試合に」の熱き思いが、利き手ではない左手一本のシュートを生み、インターハイ出場を呼び込む！  
鳥沢 優子 作 小学館



『マスカレード・ホテル』  
都内で起きた不可解な連続殺人事件。次の犯行現場は、超一流ホテル・コルテシア東京らしい。殺人を阻止するため、警察は潜入捜査を開始し……。1行たりとも読み飛ばせない、東野ミステリーの最高峰。  
東野 圭吾 作 集英社



『夜のピクニック』  
全校生徒が夜を徹して80キロを歩き通す「歩行祭」。高校生活の最後を飾る学校行事に、甲田貴子は密かな誓いを抱いてのぞんだ。友人たちが3年間の思い出や将来の夢を語り合う中、貴子は小さな賭けに胸を焦がす。  
恩田 陸 作 新潮社